

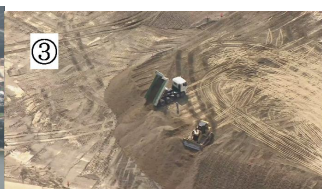
山田・陸前高田

空から見る被災地



① 東日本大震災は発生から3年半を迎えました。急ピッチで進む復興工事により沿岸被災地の姿は大きく変わっています。山田町の山田湾

(写真①)は養殖施設が並び、穏やかな表情を見せています。一方、2011年3月11日の津波で寸断された船越半島の付け根(写真②・③)では、トラックや重機が盛り土を進めています。



陸前高田市(写真④)の高田松原はすっかり姿を変えました。気仙町の高台(写真⑤)は土がむき出しになり、削られた土砂は巨大なベルトコンベアで運ばれています。県内で死者5114人、行方不明者1132人の犠牲が出た東日本大震災、3年半が経った今も、3万699人が仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。(9/11 ニュース)



大槌発

海洋調査船「新青丸」

東日本大震災が海に与えた環境の変化を調査する船「新青丸」が大槌港に入港しました。「新青丸」は、海洋研究開発機構が



去年6月に建造した長さ66メートル、1629トンの船です。気象や海底の地形を調べる世界最新鋭の観測機器が配備されています。今後は大槌港を基



点にして、海の生態系がどのように変化したのか調べ、漁業復興に役立てることにしています。(9/13 ニュース)

陸前高田発

ブランド米「たかたのゆめ」



震災の翌年から栽培が始まった陸前高田市のブランド米「たかたのゆめ」が今年も豊かな実りを迎えました。「たかたのゆめ」はJT=日本たばこ産業が復興支援で種籾を市に提供し3年前から栽培が始まりました。作付け面積は年々増えて、今年は54ヘクタールとなり、150トンの収穫が見込めることから、地元スーパーでの通年販売や市内の飲食店での提供も始めます。陸前高田市では市内の小中学校や保育園で「たかたのゆめ給食」を行い、地元産のブランド米と農業の復興について学んでもらうということです。(9/16 ニュースエコー)



大船渡発

写 さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は大船渡「FMねまらいん」の伊藤こずえさんが、10月6日(月)に大船渡・野々田埠頭に入港する豪華客船【飛鳥Ⅱ】について伝えてくれました。

【飛鳥Ⅱ】は定員860人の大型客船で、レストランや図書館、シアター、プールなど各種設備を備えています。今回は「秋の日本一周・韓国クルーズ」として大船渡港にも寄港するもので、当日は地元市民による各種歓迎イベントが予定されています。伊藤さんは、「【飛鳥Ⅱ】は大船渡湾に浮かぶどの島よりも高い大型客船です。その素晴らしい船を皆さんに見てもらおうと共に、乗船しているお客さんにも、大船渡のサンマを食べたり、地元との交流を深めたりしてもらったら嬉しい。」と話していました。(9/17)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中

詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>

IBC復興支援室事務局 019-623-3122